

事業手法の比較について

1. 施設整備及び維持管理・運営において想定されるパターン

新しい体育館の整備・管理の方式としては、以下の3つのパターンに整理されます。それぞれの特徴は、以下のとおりです。

図表1 想定される事業方式

パターン		特徴
公設公営	整備は一般の工事請負、維持管理・運営共に業務委託	<ul style="list-style-type: none"> 従来型の事業方式であり、公共が主体で整備、維持管理・運営等を行う。 区が主導であるため、区の政策に適合させやすい。
公設民営	整備は一般の工事請負、維持管理・運営は指定管理者制度	<ul style="list-style-type: none"> 区の政策を反映した施設整備、維持管理・運営が行いやすい。 特に、運営面において民間事業者のノウハウを活用することで、サービスの質の向上やコスト削減が見込まれる。
民設民営	整備から運営まで一括してPFI※等事業	<ul style="list-style-type: none"> 設計・建設から維持管理・運営までを一括して民間事業者が行うため、事業全体のコスト削減やサービスの向上が見込まれる。 公共からの支払いは、事業期間を通じて固定化・平準化される。

※PFI (Private Finance Initiative) : 民間で資金調達して施設を建設し、民間が管理を行う。なお、公共は契約期間中、民間に毎年サービス購入費(委託費)を支払う。

